

情報のウイルスと癌細胞

情報の流れはあたかも毛細血管の中を通り、それぞれの細胞の維持をつかさどっている血流に似ていますが、このようなネットワークの増大と利便性にも危険な一面があります。まず、無法者のチャレンジャーが送ってくるコンピュータウイルスです。これに感染すると、ひどいものでは大切なデータをめちゃくちゃに破壊してしまう場合があります。また、コンピュータの中で勝手に増殖し、知らないうちに自分の分身を他のコンピュータに送って感染させてしまうこともあります。毎年新しいウイルスがいくつか発見され、話題になりますが、そのたびに多くの被害が報告されます。筆者も一度感染したことがあります。パソコンの機能がおかしくなり、いままで蓄積してきた文書や画像が読めなくなってしまう、ほんとうに困ってしまいました。

人間に感染するウイルスもいろいろな種類があり(図3)、どんどん新しい形のものが見つかったりしますが、そのたびに新しいワクチンを開発したりしていますね。これはパソコンの世界でもまったく同様です。

とくに直接相手が見えない、声が聞こえないメールやインターネットの世界では、他の組織に勝手に入り込んで情報を盗んだり、壊したりするハッカーと呼ば

れる者もいます。

また、税金対策や、投資情報、さらには出会い系サイトなどこちらの事情に関係なく送られてくるダイレクトメールもあります。Eメールはうるさくないし、場所も取りませんから、電話や手紙ほど迷惑ではありませんが、やはり困ったものです。情報化社会の一員として、私たちはそれぞれのルールやエチケットを大切にしながら生活しなければなりません。

このような人たちや組織は情報社会のルールを守らないで自律性をもたずに増殖します。まるで“癌細胞”のようですね。

ホームページを出してみましょう

いろいろなホームページを訪れたり、メールのやり取りができると本当に世界が広がるものです。家庭やオフィスにいながらにして、たくさんの情報をやりとりできる便利さは感じられたと思います。そこでもう一歩踏み込んで、ホームページを出してみたいかがでしょうか？ パソコンビギナーの熟年先生には一歩どころではない大英断かもしれません。しかし、ここは勢いが大切、ワープロをある程度使えるようになればそんなに難しいものではありません。いまは便利なソフトが数多く出ています。

筆者がホームページを作成し始めた平成7年の暮れの頃は、文字をタイプしては文章を保存し、そのファイルをブラウザに入れて確認することの繰り返しで、いま思えば大変マニアックなものでした。

インターネットはさまざまなOSのコンピュータでも、同じように情報が見えたりやり取りできる道具です。ホームページの多くはHTMLという言葉で書かれています。たとえば、ワープロでは改行はキーボードの右端にあるEnter(あるいはReturn)キーを押せばいいのですが、HTMLでは
とタイプしなければならなりません。文字の色については8桁くらいの数字や文字の羅列で書かれ、その文字から色を想像する

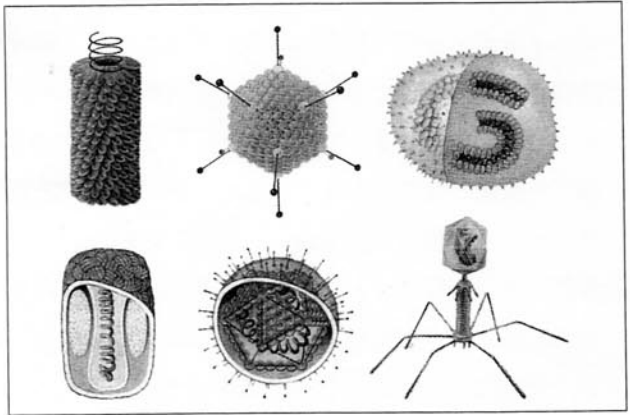


図3 人間に感染するウイルスの模式図。当然、コンピュータウイルスには形がありません